

## 最近の若者女性の着装に対する女子大生と母親の意識

○市川 淳子 小林 茂雄

(共立女大)

〈目的〉服装の規範は時代とともに変化しているが、特に若者層ではこの傾向が強く個人的な着こなしも見受けられる。そのような着装についても、受取り方は年齢や性格により異なると思われる。ここでは最近、街中で若者女性を中心に見受けられる着装行動がどのように受け取られているかを、女子大生とその母親を対象に調査し考察した。

〈方法〉女子高校生を含めて、最近の若者女性の特徴的な着装行動を多く収集し、それらの行動を行う場合の抵抗感の強弱を考慮しながら着装の行為を選んだ。それらの行為をどのように受け取るかを、抵抗感がない、ややある、かなりある、非常にある、の4段階尺度を用いて、女子大生153名と、その母親148名に評定してもらった。その場合に女子大生には、①自分がする、②同年代の女性がする、③女子高生がする、の3通りの場合について、また母親には、①女子大生がする、②女子高生がする、の2通りの場合について評定してもらった。評定データについて、評定者の女子大生と母親間、行為の実行者の女子大生と女子高生間で比較検討した。

〈結果〉評定者の女子大生と母親の比較では、同じ行為であっても年齢差により抵抗感には差があり、特に肌の露出に関連する着装の行為では差が大きい。最近の若者女性の特徴的な着装行動として取り上げられている行為でも、女子大生にとって自分がする場合には抵抗感が強いものが多い。しかしながら、自分がするには抵抗感の強い行為でも、他人が行うなら同年代の女性であっても、女子高生であっても抵抗感に差を感じない傾向がみられる。